

2018年度 学校自己評価シート（慶應義塾志木高等学校）

目指す学校像	独立自尊の気風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生を育成する教育を行う。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な学問の習得 2 個性と能力をのばす教育 3 学校行事とクラブ活動の充実 4 開かれた学校づくりの推進
------	---

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者	8名
事務局（教職員）	1名

学校自己評価					2018年度 評価 (2019年3月31日現在)		
2018年度 目標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	将来、社会の各分野で先導者として活動するため、また慶應義塾大学に進学する前段階として基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を理解させるとともに、自主的に学習するための指導の実施	基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を理解させるとともに、自主的に学習するための指導の実施	・各教科部会におけるきめ細かい指導方針の確立と実践 ・必修科目、選択科目、多様な語学科目を充実させ、幅広い学問的好奇心等の要求に対応	・教科責任者会議において情報共有化と学習指導方針の措り合わせを図る。	<p>【基礎的な学問の習得】</p> <p>・国語や社会の授業において、積極的に情報機器などを活用してレポートなどの指導を行った。研修・見学旅行などの校外学習を利用して日本の伝統文化への理解を深め、表現力指導を行った。これらについて、図書館や収穫祭（文化祭）などにおいて発表を行った。</p> <p>・2009年度より、数学教育において高大連携教育の一環として、大学理工学部1年生対象の数学授業を聴講できる制度が始まった。今年度は3年生10名が聴講し、大学で学ぶ機会を得ることができた。</p> <p>・2011年度より理科教育の一環として長野県諏訪市～新潟県糸魚川市周辺において、水質調査やジオパーク見学に基づく地質学的な日本形成史類推を中心に据えた生物・化学、地学・物理の実習を行っている。</p> <p>・2012年度より、3年生物の授業（単元：進化と系統）の一環として、校内自然観察会のインストラクターを希望した生徒への集中講座と観察会におけるインストラクションを実施した。</p> <p>・外国語教育において、単語・文法・精読・多読によるインプット量の増大など、外国語を習得する上で不可欠な基礎力を伸ばす授業を実施している。能動的英語力の向上の面では、Academic WritingやPower Pointを使ったプレゼンテーションを行い、ジェスチャー・アイコンタクトなど非言語的要素も考慮して総合的なコミュニケーションスキル向上に努めている。また、スコア型4技能検定試験であるGTECを実施している。授業以外にも、全生徒が年間を通して気軽に英語に触れることが出来るよう、昼休みや放課後にネイティブ・スピーカーの教師と話せる場を設けており、とても有意義なものとなっている。</p> <p>・『樗』第27号を発行して、部活や生徒会などの活動報告および授業などで作成した作品やレポートの発表の場を生徒に提供し、教員はその指導を行った。</p> <p>【学問・研究の必要性】</p> <p>・日本語各論では、「語り継ぐべき戦争文学」と題し、文学から戦争を考える機会を設けた。</p> <p>・文学特論は、エンターテインメントを文学史・哲学史と接続することで総合的に把握した。</p> <p>・日本語特論では、ことばやことばを用いたコミュニケーションについて考察を深めた。</p> <p>・国語総合（甲）では、近代文学を思想史・政治史と関連させて同時代を多角的に考察した。</p> <p>・英語A 映像や資料からアメリカの文化・歴史に関して学んだ。</p> <p>・英語B 社会問題や人物についての資料を読み、各自の意見を発表させ、指導した。</p> <p>・英語C ネイティブ・スピーカーにより、英文ライティングの添削指導を行った。</p> <p>・社会Cでは、受講生全員が、キャリア学習・ライフデザインの一環として、夏季休暇中に企業見学とインターンシップを行い、また、金融経済教育・パーソナルファイナンス教育の一環として、4か月に渡り日本証券業協会と東京証券取引所が主催している株式売買シミュレーションプログラム「株式学習ゲーム」に参加した。またこれらの取り組みの発展として、東京都が主催している次世代アントレプレナー育成プログラム事業のひとつであるビジネスコンテスト「TOKYO STARTUP GATEWAY 2018」と、日本経済新聞社が主催しているコンテスト形式の株式学習プログラム「日経ストックリーグ」に挑戦した。</p> <p>【必修科目】</p> <p>【選択科目】</p>	A	<p>←各部会ごとの達成状況</p> <p>・情報機器をより多くの授業で効率的に活用する。 ・継続的な資料収集・調査などの教材研究を行う。</p> <p>・日吉まで毎週聴講に行かなければならないにもかかわらず、希望者数が安定している。</p> <p>・語学教室を改装し、情報機器を活用する ・図書館の洋書を、より充実させる ・ネイティブ・スピーカーの教師と生徒との触れ合いの場を、より充実させる。</p>

学校関係者評価	
実施日 2019年5月11日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・レポート課題の多さは志木高の特色ともなっており、知る・理解する・考える・書くという一連の作業の中で、論理的に物事を考える力がついていると感じます。生徒も先生も大変努力のいる課題だと思いますが、今後も減らすことなくご指導いただけたらありがたいと思います。</p> <p>・研修旅行では楽しい時間を過ごすだけでなく、準備からレポート作成まで、立体的かつ有意義な体験ができていると感謝しております。</p> <p>・小学校から大学までの一貫校に近い形式をとる学校として、高校～大学のタテのつながりを学校教育に活用することは、生徒にとって非常に意義があると思います。慶應は学校間のタテのつながりに乏しいところがありますが、本校の強みを活かすためにもこのつながりを活用することは重要なことと考えます。</p> <p>・大学での学業が具体的にイメージできる非常に有意義なプログラムだと思います。是非、継続および拡大をお願いします。</p> <p>・2年生の諏訪湖関連のレポートはかなり大変そうでした。その分、有意義なものになったと思いますが、課題の量が適当だったかどうか、検討をお願いします。</p> <p>・GTECの試験結果をデータとして保護者にもお知らせ頂けると助かります。一部では、大学入試で入学した生徒と志木高生との英語能力の差があるという話を聞きますので、GTECの検定試験が大学入試レベルの英語力を測るものであると理想的かと思います。中等部でもGTECを実施しているので、スコアの増加が分かるのがいいと思います。</p> <p>・基本的に大学受験を必要としない本校では、本来あるべき姿の英語、外国語教育を実施できる状況にあると思います。文科省の指導要領の問題があるかと思いますが、読み・書き・話すをバランスよく育成する外国語教育の充実を引き続きお願いしたいと思います。</p> <p>・3月にテスト返却期間を設けたのはよかったですと思います。 ・学校を会場として英検や漢検を実施し、成績への反映があるといいと思います。 ・ネイティブ・スピーカーの教師と生徒の触れ合いの場が、あまり生徒に知られていないのではと思います。より開かれた、コミュニケーションの場として魅力的なものになるようお願いします。</p> <p>・3年の政治経済で「学問ノススメ」及び福澤諭吉を扱うようです。1年でも福澤諭吉の学習の機会があるといいと思います。</p> <p>・文学を通じて、またはその他の形で日本の過去の戦争体験についてその史実を知り、考える機会は教育現場で行って頂けると有難いと思います。</p> <p>・「〇〇学部希望ならこの科目を選択するように」と注意書きのある選択科目があるので、3年生の選択科目の希望提出前に学部説明会があるといいと思います。</p> <p>・受験勉強ではない学習、個性ある先生方の授業を期待しております。</p> <p>・夏休みに裁判所に見学に行き、レポートする課題が出る科目があるようです。なかなか出来ない体験だと思います。</p> <p>・語学学習は、状況設定での生徒同士の会話練習や英語だけでの授業進行など増やしていただくなど、より実践的な内容にしていっていただくよう希望します。</p> <p>・インターンシップへの参加は、学部選択やその先の就職について具体的に考えるきっかけになったようでした。また、「株式学習ゲーム」によって、家庭でも株式市場についてのニュースを積極的に調べる様子が見られ、将来自身が身を置く社会の仕組みを知る上で大変良い経験だったと思います。</p>	

学 校 自 己 評 価				
2018年度 目 標				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
				<p>・選択社会Bでは、単に世界史知識を広げるだけでなく、オルテガ『大衆の反逆』を各章毎に解説しながら通読した。また、生徒には「研究ノート」の作成法も指導し、大学進学後もレポートや卒論の作成作業に応用可能なアカデミック・スキルの習得も目指した。生徒が各自で歴史事項を調査し、それについてオルテガの諸議論を参照しながら考察した学習成果は、収穫祭での展示発表や年度末のレポート（約7000字程度）という形で示された。</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>・総合的な学習の時間の一環として、三浦半島を中心とした二泊三日の研修旅行を行った。 「社会」「国語」「理科」を軸として事前指導を行い、班ごとにテーマをもって取り組む自主研修（横浜方面および鎌倉方面）と、学年全員で学習を行う集団行動（横須賀市・三浦市）を組み合わせた、自主性を重んじる旅行となった。</p> <p>・24言語の「ことばと文化」や「語学課外講座」を通して、各国の文化と伝統を学ぶ機会が多かった。特に各国の伝統料理店を訪れ、それぞれの食文化を感じることができた。</p> <p>【全体的な学習環境の充実】</p> <p>・例年通り、本校主催による学部説明会を実施したり、慶應義塾大学各学部主催による説明会・見学会や模擬授業が実施された。</p> <p>・「災害対応に関する教職員マニュアル2018年度版」を整備し、緊急対応の体制を充実させた。</p> <p>・教職員対象のB L S講習会を開催し、緊急対応の体制を充実させた。</p> <p>・『研究紀要』第49輯、『ことばと文化』第23号を発行し、教育、研究の発表の場を充実させた。</p>
2	現在の生徒数による教育の長所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。	教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育の実践	・精神面においては、クラス担任のみならず全教職員、医師、スクールカウンセラーによるきめ細かい指導の実践	・教員会議において生徒の現況の情報共有化を図り、と協力体制を構築する。
				<p>【特色ある教育】</p> <p>・2013年度に設置された国際交流委員会により、2012年から行われているオーストラリアToowoomba Grammar Schoolに加え、2014年度から開始された台湾Wego Private Bilingual Senior High Schoolとの短期交換留学（10名、7日間）が本年も実施された。</p> <p>・アメリカ、ハワイ州Punahou SchoolにおけるSGLIに継続して参加した。</p> <p>・今年度実施されたオーストラリア・台湾・SGLIの各プログラムに加え、今年度休止し、来年度再開予定のフィンランド短期交換留学について、収穫祭にて交流の一端を発表した。</p> <p>・3年生の学年行事として、劇団四季公演「恋におちたシェイクスピア」を観劇した。生の舞台に触れ、演劇とシェイクスピアへの関心を深めた。</p> <p>【ストレスケア】</p> <p>・例年、教職員、医師、カウンセラーがチームとなって、様々な問題を抱えている生徒に対応している。</p>

学校関係者評価	
実施日 2019年5月11日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
	<p>・2年生の24言語の選択は、第5希望まで書かれます。正直、第4、第5希望に興味があるとは思えません。各クラスの数制限もあると思いますが、第3希望くらいまでおさまるよう希望します。</p> <p>・24言語の学習は評定に入らない学習でありつつも生徒にとって未知なる文化を知る良い機会になっています。各国の伝統料理店を訪れるという項目においては、選択語により無い場合があるようです。</p> <p>・1、2年生も広く参加できると、早期より学部選択を意識することができ、3年間の勉強への意欲もより増してくるのではないかと思います。</p> <p>・夏の体育館内は外より暑かったそうなので、体育館に冷房がついてよかったです。</p> <p>・学部説明会へは、保護者も参加できると進路選択の際に親子間の意識のズレが生じなく、スムーズにいくかと思っています。</p> <p>・普通部の「目路はるか教室」のようなプログラムを作れないでしょうか。在校生に自分の進路を考えてもらう機会になると同時に、慶應にいることの価値を感じる良い機会になるはずだと思います。</p> <p>・自分の進路や将来を考える機会を増やすカリキュラムの導入を検討願います。各分野で活躍する卒業生を招いての講演会やミニインターシップ（企業から課題をもらって検討、プレゼンテーション等）などが考えられると思います。</p>
	<p>・オーストラリアToowoomba Grammar School、台湾Wego Private Bilingual Senior High SchoolおよびフィンランドLuostarivuoren Lukioとの短期交換留学制度を継続するとともに更なる発展に向けて検討を行う。また、アメリカとの国際交流事業の開発に向けて調査・企画・実施の検討を行う。</p> <p>A</p> <p>・SGLIを通じて、英語が得意な生徒の意欲・能力をさらに高める。</p>
	<p>・具体的な事例に及ぶのであれば難しいかもしれませんが、調査・分析結果を可能な範囲で開示して頂くことは可能でしょうか？ 恐らく家庭でも知っておくべき内容があるのではと思いますので検討をお願いいたします。</p> <p>・学年が上がるに従い、悩みの質は変化しているように感じます。部活では責任ある立場に置かれつつ、学習面でもより一層の努力が必要になるなど、友人や親、教職員へも相談しにくい内容が多々生じていたように思います。様々なケースに対応されているカウンセラーの存在は今後も非常に重要となると感じます。</p>

学 校 自 己 評 価				
2018年度 目 標			2018年度 評 価 (2019年3月31日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
3	生徒を多様な学校行事とクラブ活動等に参加させることにより、良好な人間関係や規範意識を育成し、積極的に心身の健康の増進を図り、リーダーシップを培う教育を行う。	生徒が自主的に学校行事、各人に適したスポーツ、アート、リサーチ、各種のプロジェクト等に参加するための指導の実践	・学級担任会、生活委員会、体育部会・文化部会等においてきめ細かい指導方針の確立と実践 ・学校行事、体育系・文化系クラブ活動の選択肢の充実	・HR活動、生徒会活動、体育系・文化系クラブ活動においての適正な指導を図る。 ・学校行事を催すにあたり、生徒の自主的な活動をサポートする形で、自己表現と団結の時間と場所を共有することが出来た。 ・体育行事は例年通り行われた。クラスマッチは定期試験の終了後、学年別に行い、日程の有効な活用と内容の向上が図られた。 ・旅行、体育行事については、教員会議にて目的の確認、実施季節等詳細に改善策を議論し始めたので、近年中にはより良い方向へ向かうと思われる。 ・スマートフォンの普及による社会の大きな変化に対応するために1年生を対象に講演会を行った。さらに、保護者対象の講演会も行なった。 ・第124回志木演説会においては、本校OBであり慶應義塾大学経済学部教授である駒形哲哉先生に、「シェアリングエコノミーの中国的展開」という演題で講演いただいた。中国の社会環境、経済の新たな方向性とそこで成功を収める日本企業の事例、ビジネスモデルとしての問題点と今後の可能性などの最新の話題を伺った。 ・第125回志木演説会においては、慶應義塾大学教職課程センター教授・副所長である佐久間亜紀先生に「共に生きる社会を目指して私の失敗談から」という演題でご講演いただいた。人を従来区分に囚われず、スペクトラムという連続体の中で理解することの必要性について貴重な話を伺えた。 【生徒会活動】 ・生徒会活動の一環として、正門前や校内で「緑の羽根募金」を行い、36,047円の募金を（財）埼玉県緑化推進委員会に寄付した。 【クラブ活動】 ・クラブ活動を通して、基本的な生活態度を整えることが出来た。縦の繋がりの希薄な世代において、上級生が下級生をしっかり指導し、統制をとることのできる環境作りが出来た。 ・器楽部が今年度の吹奏楽コンクールにおいて、県大会で金賞を受賞、西関東大会で銀賞を受賞した。 ・ワグネル・ソサィエティー男声合唱団が今年度の合唱コンクールにおいて、県大会および関東大会で金賞を受賞した。 ・水泳部が関東大会（50m自由形、100m平泳ぎ、400mメドレーリレー）に出場した。また、インターハイ（50m自由形）にも出場した。 ・ゴルフ部が関東大会の団体戦および個人戦（夏季・冬季）に出場した。 ・端艇部が関東選抜大会3位（M4X+・M2X）の戦績を収めたのち、全国選抜大会で3位（M4X+）・16位（M2X）に入賞した。また、3年生1名が埼玉県選抜選手（M4X+）の一員として、国体関東ブロック大会優勝・「福井しあわせ元気国体」3位入賞を果たした。（※M4X+:男子舵手付きクォドルプル、M2X:男子ダブルスカル） ・スキー部が、関東大会（大回転・回転）インターハイ（大回転・回転）出場の戦績を収めた。
評価項目の達成状況				
達成度				
次年度への課題と改善策				

学校関係者評価	
実施日 2019年5月11日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・中等部で頂いたバインダー「健康手帳」はB5サイズ。志木高の健康診断結果の紙はA4でした。一貫教育校での統一を望みます。	・SNSによる収穫祭の情報発信は大変楽しく、収穫祭への期待が膨らむ良い企画だと思えます。その分、情報の扱いには十分な注意が必要となりますが、多様な自己表現の場として上手く利用しているな、と感心しました。
・夏のクラスマッチでは、種目に水泳があってもいいのではないのでしょうか。	・お酒、タバコ、麻薬に関しては、1年生の保健の授業で扱うそうです。今後も社会情勢に合った講演、授業、注意喚起などをお願いいたします。
・SNSのマナーについては、生徒のみならず保護者への注意喚起が必要と思えます。SNS慣れしていない世代であるが故に、画像の扱い等に認識の違いが多く見られました。	・スマートフォンに関する注意喚起は、やりすぎることではないので、もっと機会を増やしてください。
・講師の先生ご自身の経験からくる臨場感のあるお話が大変興味深かったと聞きました。今後も興味を持てるような講演の機会を作って頂けたらと思います。	
・HPでの部活動報告、楽しく拝見しておりますが、いつも決まった部活の紹介が多いと感じています。試合でいい結果は出ていないけど頑張っている部活の紹介も期待しております。	
・各クラブ活動の、益々の活躍を応援しております。	

学 校 自 己 評 価				
2018年度 目 標			2018年度 評 価 (2019年3月31日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
4	ホームページ等で情報を有効に発信し、学校行事、学校施設等を開放するとともに、本校生徒が小学校、中学校、養老施設等を訪問し、交流を図る。	家庭、地域社会に対する積極的な情報の発信、オープンキャンパスの実施、生徒の積極的な地域活動への参加	・各委員会の連携と内容の充実	・教員会議において活動状況の情報共有化と協力体制を図る。
				<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正門脇に設置した掲示板により、「校内自然観察会の案内」、「緑の募金の結果」などを掲示し、地域住民の方々へ情報を提供した。 ・『学校案内2019』を刊行した。 ・公式ホームページおよびFacebook・Twitterのアカウントを引き続き活用し、情報の提供に努めた。 ・PTA総会、学校説明会、保護者会を例年どおり行った。 <p>・2011年11月より、モニタリングポストを設置し、放射線量計測を自動化するとともに、計測値をweb上で誰もが見られるような形にして、情報公開を継続中である。</p> <p>・初めての試みとして、一般・帰国生入試の1次試験、及び2次試験の合格発表をウェブサイトでも行った。</p> <p>【授業に絡めた地域理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種小論文コンクール等への参加や出品を、積極的に行った。 <p>【クラブ活動を通じた地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽部が志木市立宗岡小学校、志木市立宗岡第2小学校を訪問、同校の全校児童を対象に音楽鑑賞会を行った。 ・器楽部が「第20回定期演奏会」（3月20日、21日、志木市民会館）を開催、地域の方々を中心におよそ2,700名の来客があった。 ・ワグネル・ソサイエティー男声合唱団が和光市主催被災地支援チャリティコンサート、介護施設でのコンサート、いろは遊学館「いろはふれあい祭り」に出演するなど地域との交流をはかった。 <p>【学校行事を通じた地域交流】</p> <p>【学校施設を利用した地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール埼玉県西部地区の中学3年生を対象として、全日本U-16のメンバー候補生を集め、講習会を行った。 ・近隣（志木市、朝霞市、新座市）在住の方々を対象とした校内自然観察会を5月と9月の2度開催し、211名の参加を得た。2007年開始から25回を数える2018年度で累計1,629名の参加を頂いたことになる。 ・近隣小学校および保育所に本校の敷地を一部開放し、どんぐり拾い等の行事に供した。 ・年に数回近隣のラグビースクールにラグビー場を使用してもらっている。 ・農業同好会の生徒たちが、『①農業の大切さと大変さを学ぶ、②無農薬野菜を作る、③前身為農業高校であるという志木高の歴史を重んじる、④農作業を通じて協調性と責任感を身につける、⑤クラスを超えたメンバー同士の絆を育む』という5つの目標を掲げ、志木高の畑で通年におわり農作物の栽培実習に取り組んだ。栽培実習の様子を自然観察会でご来校くださった方々にご覧いただき、地域交流も行った。 <p>【学校いじめ防止基本方針に基づく取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に基づく調査を実施し、教員会議において複数回議論を行なった。また、今年度も学校自己評価と併せて校内掲示にて周知した。
				<p>【評価項目の達成状況】</p> <p>達成度</p> <p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式ホームページにおいて、部活動の戦績紹介・活動報告等をより積極的に行えるよう、仕組みづくりを検討する。 ・各行事などの報告をホームページにより詳細に載せる。 ・各種コンクール・コンテストなどへの個人・グループでの応募を積極的に奨励していく。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OBや一般市民向けの本校教員による公開講座実施などの可能性の検討が望まれる。 ・本校の恵まれた自然環境を生かして地域にオープンにしていく工夫を学校全体として議論していきたい。将来的にはなるべく早く多目的棟を建設し、本校が地域の文化的拠点となるような方向で設備を整理していくことを考えるべきである。 ・学校施設の地域社会への開放について、今後も検討を行う。

学校関係者評価	
実施日 2019年5月11日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚舎、中等部、普通部、慶應義塾高校、慶應女子高校にはPTAがありません。志木高のPTAは必要なか、検討をお願いします。 ・収穫祭では慶應大学グッズ、収穫祭ファイルが販売されますが、売店での志木高グッズの常時販売も検討をお願いします。（ノート、シャープペン、ボールペンなど） ・ウェブサイトでの発表は、平日の発表を見に動けない親子にとって大変素晴らしいご判断だと思います。 ・器楽部の演奏会は、少なくとも1時間前に並ばないと入れないので、行きたいけれど行けない、という声を多く聞く。会場をもう少し大きなところにするのを検討していただけると助かります。 ・ワグネル・ソサイエティーの、地域主催行事や近隣施設訪問は今後も継続して欲しいと思います。活動を披露する場としてだけでなく、社会貢献の一環として、とても良い機会だと思います。 ・地域に開かれた学校は近隣住民にも生徒にも相乗効果をもたらすと考えます。今後も多く機会を設けられることを望みます。特に高齢者や障がい者コミュニティーへの参加は視野を広げる機会になると思います。 ・教室によっては冬場非常に寒いという声を聞いています。環境面が学業に悪影響を及ぼすのは極めてマイナスなので改善してください。 ・とても良い企画だと思います。継続することが重要ですので来年以降も実施してください。